

10 棚田保全による都市・農村交流の推進

中間農業地域

しもあかさかじょうし

みなみかわちぐんちはやあかさかむら

下赤阪城跡周辺棚田保全協議会（大阪府南河内郡千早赤阪村）

- 本地域は、大阪府南東部の金剛山の中腹に位置し、室町時代に形成された棚田と豊かな自然が広がる歴史や文化に恵まれた地域である。
- 平成11年に「日本の棚田百選」への選出を契機に「下赤阪棚田の会」を結成し、近郊の都市住民と連携した棚田保全活動等を実施。平成27年度に周辺地区を含めた活動組織を立ち上げ、多面的機能支払交付金を活用し、畦畔や耕作道の軽微な補修等営農環境の維持・改善を図る活動を実施。
- 本取組を通じ、都市農村交流の促進が図られるとともに、棚田と周辺環境の適切な保全により棚田を活用した村を代表する観光イベントが毎年開催されるなど地域振興が図られている。

【地区概要】

- ・取組面積
3.89ha（田3.06ha、畑0.83ha）
- ・資源量
開水路1.8km、農道1.6km
- ・主な構成員
農業者、村立中学校
- ・交付金 0.1百万円（H28）

〔 農地維持支払 〕

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、大阪府南東部の金剛山の中腹に位置し、室町時代に形成された棚田が創り出す美しい景観を有する中山間地域である。
- 千早赤阪村は過疎地域となり、人口減少や担い手不足、農業者の高齢化が進行し、棚田の維持管理が難しく耕作放棄地の増加が懸念される状況であった。
- 平成11年に「日本の棚田百選」に選ばれたことを契機に棚田保全の機運が高まり、棚田の地権者による「下赤坂棚田の会」を結成。



下赤阪の棚田

取組内容

- 平成27年度から、周辺地区も含めた活動組織を立ち上げ、多面的機能支払交付金を活用し、畦畔や耕作道の軽微な補修等の活動を行い、営農条件を維持・改善。
- 大阪府の基金を活用した「棚田・ふるさとファンクラブ」と連携し、年7～8回、草刈りや泥上げ、不作付地を利用したコスモスの植栽等を実施。



畦畔補修

取組の効果

- 棚田の保全活動に毎回多くの都市住民や大学生等のボランティアが参加するなど、都市農村交流の促進が図られている。

〔 毎年延べ300人以上が活動に参加。
多い時には1回の活動で80人が参加。 〕

- 本取組により、棚田と周辺環境が適切に保全され、「早乙女による田植え」や「金剛山の里 棚田夢灯り&収穫祭」などの村を代表する観光イベントが継続的に開催され、地域振興が図られている。

〔 近年の「棚田夢灯り&収穫祭」の観光客：4,000人 〕



棚田保全活動



ジャガイモの収穫イベント

11 復元棚田を活用した中山間集落の活性化

山間農業地域

いちやま

ごうし

市山環境保全会 (島根県江津市)

- 本地域は、島根県西部の江津市、江の川上流部の山間に位置し、5自治会が1つの組織として活動を実施。
- 平成19年度から農地・水・環境保全向上対策に取り組み、地域内の水路の草刈り等を非農業者を含め地域ぐるみで実施し、棚田も復元。
- 生物調査や古代米栽培などの子供たちの体験学習も実施し、地域の環境保全への意識が向上するとともに、ふゆみずたんぼなど環境に優しい農業を実践する農家が現れるなど新たな農業が展開。

【地区概要】

- ・取組面積63ha (田53ha、畑10ha)
- ・資源量 開水路10.1km
農道 7.5km
ため池 4箇所
- ・主な構成員 自治会、婦人会、青年会、消防団等
- ・交付金 約382万円(H28)

農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- ほ場整備から約36年が経過し、農業用施設が老朽化するとともに、農業者の高齢化や後継者不足により、農業水利施設等の維持管理の負担が増大。
- イノシシ、猿などの鳥獣による作物被害に加え、農地・畦畔法面も荒らされる被害も年々増加。生活環境にも影響。
- このため、平成19年度から農地・水・環境保全向上対策を活用し、地域ぐるみで農地・水路等の保全管理を開始。



市山の施設補修箇所

取組内容

- 農地・水路等の保全管理に加え、20年以上放置された棚田9枚とため池を2年がかりで「やぶさめの棚田」、「やぶさめのため池」※として復元。
- 生物調査や棚田を活用した古代米栽培など子どもたちの体験学習を実施し、地域の環境保全への意識が向上。



復旧した「やぶさめの棚田」現在の様子

※ ため池百選(平成22年3月25日選定)

取組の効果

- 小学5年生が体験学習で栽培した古代米を町内の5公民館のイベントに使用。地域活動の輪が集落から町内に拡大。



公民館が発行している古代米情報紙

- ふゆみずたんぼを6haで実施し、環境に優しい農業を実施する農家が現れるなど新たな農業が展開。
- 地域住民に環境にやさしい農業への関心が高まり、農地周りの草刈りなどの保全管理活動に非農業者の参加が増加。

{ 91人(H26年度)⇒312人(H27年度) }

12 つつじの里づくりによる観光資源の維持管理

中間農業地域

ふもと たがや かのあしぐん つわのちょう
麓を耕す会 (島根県 鹿足郡 津和野町)

- 本地域は、津和野町中心から4kmの青野山麓に位置する人口50人の中山間地域。ほ場整備(H5～H7)を契機に、棚田の法面につつじ1万本を植栽し、農業と美しい田園景観の形成・保全による集落の維持・活性化を図っている。
- 平成19年度から農地・水・環境保全向上対策に取り組み、農道や水路の保全管理のほか、つつじの植栽等を集落をあげて行うようになり、「つつじの里」としても知られるようになった。また、毎年つつじ祭りを実施し、県内外から大勢の観光客が訪れ、賑わいを見せている。

【地区概要】

- ・取組面積7ha (田5ha、畑2ha)
- ・資源量 開水路2.0km
農道 1.9km
- ・主な構成員 自治会、婦人部
- ・交付金 約55万円(H28)

農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、青野山の麓に位置し、「麓耕の棚田」として美しい石垣の棚田で知られていた。
- ほ場整備を契機に、石垣に変わるものとして、つつじを棚田の法面に植栽。
- 農地法面の草刈りやつつじの維持管理(剪定、植栽)に係る負担が増大。
- 高齢化や人口減少により、水路の泥上げや草刈り等の作業も継続が困難化。



本取組の対象農用地

取組内容

- 水路の泥上げ、棚田法面の草刈り、つつじの剪定や植栽などを共同活動として実施。
- 5月連休には自治会と連携し、津和野町役場、観光協会と共催で「つつじ祭り」を開催し、県内外から観光客を呼び込み。



農道補修



つつじの剪定

取組の効果

【集落の景観を向上】

- 水路・農道とともに、農地法面のつつじを適正に管理し、良好な景観を維持。「つつじの里」として知名度が上昇。
- ⇒ つつじの植栽 H10累計: 約1万本

H26累計: 約1万5千本

【地域の活性化】

- 毎年5月の連休の「つつじ祭り」に訪れる観光客が増加
- ⇒ H27実績: 約500人/日



つつじ祭りの風景

13 シバザクラを活用した棚田法面の保全管理の省力化と活性化

山間農業地域

【地区概要】

こうどう しゅうなんし
向道環境保全会（山口県周南市）

- 本地域は、山口県中部に位置し、山々に囲まれた標高約400mの中山間地域であり、4集落が里山、棚田を保全している。
- 棚田の保全作業は、高齢者に負担が大きいことから、平成19年から農地・水・環境保全対策を活用し、地域の共同活動として取り組んでいる。特に、重労働である棚田法面の草刈作業を省力化するため、マルチ被覆とシバザクラを組み合わせた法面被覆を実施。棚田の法面約1haに、10万本のシバザクラを植栽。
- 今では、地域の憩いと癒しの場となり、毎年開花時期には県内外から5万人の観光客が訪れ、都市住民との交流の場となっている。

- ・取組面積20.0ha（田19.5ha、畑0.5ha）
- ・資源量 開水路 11.9km、農道4.0km
ため池 1箇所
- ・主な構成員 自治会、土地改良区
- ・交付金 約1.8百万円（H28）

農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化）

活動開始前の状況や課題

- 棚田の法面は、高いところで9mもあり、急な傾斜面での草刈りは高齢者にとって危険かつ重労働。
- このため、平成19年から農地・水・環境保全対策を活用し、地域の共同活動で棚田の法面の草刈りなど棚田の保全活動を実施。
- 棚田の法面の草刈り作業を軽減するため、平成20年から3年計画で、シバザクラの植栽を実施。



棚田法面のシバザクラ植栽

取組内容

- シバザクラの植栽は、作業に多くの時間と労力を要することから、都市部からのボランティアを募って実施。
- シバザクラ植栽のデザインは、市内にあるデザイン専門学校の学生たちがアイデアを結集して考案。若者たちの発想を受け入れて、更なる活性化と飛躍につなげている。（市内の八代盆地にシベリアから飛来するナベヅル（国の天然記念物）をモチーフにデザイン）
- 棚田の約1haの法面に、10万本のシバザクラを植栽。



植栽デザイン選考会



ナベヅルをモチーフにしたデザイン

取組の効果

- 法面の植栽により、草刈り等、維持管理労力が低減。
- 少子高齢化が進む山あいの187世帯、人口約400人、高齢化率51%の集落に、シバザクラ開花時期は、毎年多くの観光客で賑わっている。
〔観光客数 H23 約2万人 → H28 約5万人〕
- 本取組を契機に、地元の主婦16名による農産物加工グループ「ほたる工房」も設立され、地域振興が図られている。



棚田法面を彩るシバザクラ



「ほたる工房」の皆さん

14 疎水を活かした農村コミュニティ強化と観光の推進

中間農業地域

むらやま さと はぐく

ほくとし

村山の郷・育む会（山梨県北杜市）

- 本地域は、ハケ岳、南アルプス山脈、奥秩父山塊といった山々に囲まれ、南には富士山も望める市のほぼ中央にある高根町に位置する水田地帯。疎水百選に選定された「村山六ヶ村堰疎水」を活用した様々な活動が、本交付金の取組により充実。
- 小学校等と連携して、村山六ヶ村堰疎水の歴史や役割について学ぶ親子3世代のイベントを開催したり、疎水によって育まれる食材の魅力発信などもイベントに取り入れ、地域内の様々な組織と連携し、地域間と三世代の交流を図り、地域を活性化。

【地区概要】

- ・取組面積344ha
(田228ha、畑116ha)
- ・資源量 開水路12.1km、
農道3.4km
- ・主な構成員 自治会、婦人会等
- ・交付金 約20百万円(H28)

農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、旧六ヶ村の17集落により構成されているが、共同活動に参加する若い世代の減少等により、集落単位のコミュニティ機能が低下。
- 疎水百選に選定された「村山六ヶ村堰疎水」やその周辺に生育している希少植物などの観光資源があるものの、それらの資源を保全し、郷を守り育て次世代につなぐという気運が低いことが課題であった。



疎水百選に選定された村山六ヶ村堰疎水

取組内容

- 本交付金を活用し、集落間で連携し、小学校の総合学習や親子3代で疎水の歴史や役割について学ぶウォーキングイベントを開催。
- イベントでは、女性グループによる地元産トマトをPRするトマトスイーツの試食コーナーを設けるなど、地域内の様々な組織と連携した活動を展開。
- 植生に詳しい専門家と協力し、キキョウ等、疎水周辺の希少植物を楽しむ新たな散策ルートを考案し、農村原風景探訪のイベントを開催。



イベントにおける試食コーナーの様子



絶滅危惧種の
キキョウ

取組の効果

- 地域内の子どもを対象に疎水の歴史や役割を学ぶ環境学習に取り組むことで、親世代にも、疎水保全に係る理解を醸成。
- 村山六ヶ村堰疎水や地元食材など地域の魅力を発信。知名度を上げることで、多くの観光客を受け入れ地域を活性化。

・H27年度ウォーキングイベント参加者数:131人(3小学校4年生)
・H27年度農地維持活動の参加率:9割超

・H27イベント広報活動:広報誌 3回、TV取材 3回
・地域間交流イベントにおける地域外からの参加割合:約3割
・希少植物を楽しむイベント参加者数:約120人



小学校と連携したイベントの様子

15 生産緑地における稲作農家を中心とした取組

都市的地域

はねようすい

はむらし

羽用水保全会（東京都羽村市）

- 本地域は、羽村市西部の多摩川左岸に位置する市内唯一の水田地帯であり、水利施設等の保全管理は用水組合が行っていたが、農業者の高齢化と相まって、施設の老朽化等が進み、維持管理に苦慮していた。
- 本交付金の取組により、施設の点検、水路・農道の草刈り、泥上げ等の保全活動を持続的に行える体制が整い、都市的地域の生産緑地における水田農業の持続と、水田を活用した農業体験やチューリップまつりなどの取組を支えている。

【地区概要】

- ・取組面積7.2ha
(田5.6ha、畑1.6ha)
- ・資源量 開水路1.4km、
農道1.6km
- ・主な構成員 農業者 41名
- ・交付金 約20万円(H28)

農地維持支払

活動開始前の状況や課題

- 本地域の水田は、地域の小学校の農業体験学習や、収穫後のチューリップ栽培、大賀ハスの植栽池などに利用され、観光資源として年間を通じて学びや交流の場を提供。
- しかし、用水組合の農業者の高齢化や農業水利施設の老朽化等により、維持管理作業や費用の負担が増大し、施設の保全管理に苦慮。また、営農の継続にも不安があった。

幹線水路



羽村市内の唯一の水田地帯

取組内容

- 平成27年度から本取組により用排水路の泥上げ、畦畔や用水法面の草刈りのほか、遊休農地の発生状況の把握、防止のための取組等も開始。また、本取組により、余力ができた用水組合は水路補修を直営で施工。
- 以前から、継続的に取り組まれてきた農業体験学習やチューリップまつり等の観光イベントにも協力。



用水組合による補修作業

活動組織による水路の草刈り

取組の効果

- 農地や農道、農業水利施設が適切に保全管理されることにより、農業の持続性と、様々な観光イベントの継続性が向上。
(農業体験学習:参加者延1,790名(H27)
チューリップまつり:来場者約13万人(H28))
- 地域に密着した活動により、次世代へと文化・風習を受け継ごうとする機運が向上。
- 本取組により農業が継続されることで、市民・地域企業・市外を含むボランティアがサポーターとなっている観光イベントの更なる発展も期待。

チューリップオーナー(H27)
個人:176人
団体:58団体
会費:164万円
植付等ボランティア
(H27)約1,850人



チューリップ祭り



農業体験